

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成 28年 6月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出の機会を多く作り、季節ごとの花々や景色などを見て、感じて楽しんでいただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地から少し離れた農地に囲まれた2階建ての建物で、1階にデイサービスが併設されている。1階と2階がグループホームの事業所である。母体法人は介護事業を多く手掛けており、職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。地域の情報を得て地域行事に参加したり、保育園や中学校との交流や、ボランティアの訪問もあり、利用者の楽しみにしている。買い物や外出など計画を立て、利用者を事業所に閉じこめない支援に努めている。管理者と職員が理念に沿って、利用者は日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかに過ごしている様子から伺うことができる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム丹原の郷

(ユニット名) 南町

記入者(管理者)
氏名 松木 祐子

評価完了日 平成 28年 6月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ご利用者様に理念を書いて頂き、仕事の中目に見える所に貼り、共有している。 名札の裏にも記入しているが、普段は名札をつけていないため、あまり活用されていないと思う。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基に、事業所独自の理念を作成している。各ユニットのよく見える場所に、利用者が書道で書いた理念を掲示している。年に1回法人の総会があり、理念について説明を行っている。また、日々の申し送りの中で、管理者は職員と意見交換を行い理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎年、丹原商店街の七夕祭りに出展し、参加させて頂いている。昨年は行けなかったが、運動会や文化祭にも、また参加したいと思う。 天気の良い日は散歩をして、近所の方と挨拶を交わしている。 また、花が咲いた時期はホームの掲示板に写真を貼り出し、中に入って見て頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域の自治会には加入していないが、運営推進会議に老人会長や民生委員の参加があり、地域の情報を得ることができている。七夕祭りの飾りを利用者と一緒につけて商店街に出展して交流を深め、利用者は年に1回の夜間の外出を楽しんでいる。また、地域の運動会や文化祭や秋祭りには、継続して参加したいと考えている。天気の良い日は、車の往来が少ない通りを選んで散歩している。法人のデイサービスにボランティアの訪問がある時に利用者も参加して、生け花や書道、歌や踊り等楽しみにしている。管理者は事業所を地域の方がいつでも訪問できる交流の場所にしたいと考えている。</p>	地域住民との交流は行事の参加が中心となっている。利用者が地域で暮らしていくためには、地域とのつながりが大切であり、地域住民が事業所の理解を深められるよう、積極的に関わりを持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設に見学に来られた方には、いつでも見学して頂いたり、電話でも認知症のことや介護保険、ホームの入所について相談を受付たりしている。 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域の方々やご家族にホームでの行事や日常生活、ご利用者様のご意見などをお話している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に一回開催している。利用者、家族、包括支援センター、公民館長、民生委員の方々に参加して頂き、写真を見て頂きながら、ホームでの行事や日常生活を報告したり、利用者本人の話を聞いて頂いたりして意見やアドバイスを頂いている。頂いたアドバイスは参加していないスタッフにも伝え、参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、市職員、市介護相談員、自治会長、老人会長、民生委員、見守り推進員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の状況や行事報告を行うとともに、参加者からの要望や意見を聞いている。参加者が防災に関する意見を出し合って意見交換を行い、利用者の安心と安全なサービスの向上に活かしている。参加しない家族には面会時に事業所の玄関で閲覧できるように配慮している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 主に管理者が行こなっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市職員及び市介護相談員が出席をし、事業所の実情を把握してもらうとともに、意見や助言を得ている。事故報告等の提出時には、分からないことをその都度相談するなど協力関係が築けている。また毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話をよく聴いてくれ喜ばれている。介護相談員の連絡会に管理者が参加し、市主催のケアマネ連絡会には、介護支援専門員が参加し連携を深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はユニット出入口や玄関や窓に鍵をせず、いつでも自由に出入り出来るようになっている。 日常的に身体拘束はない。 また、定期的に身体拘束についての勉強会を行うなどして、徹底に努めている。</p> <p>(外部評価) 接遇マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの取組みについて理解を深め、職員への周知徹底を図っている。言葉の拘束についても、職員間で共有しながら支援している。また、段差のある危険な場所以外は施錠せず、日頃から職員一人ひとりが、利用者の安全の確保と自由な暮らしを支援するため、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、勉強会を行ったりして高齢者の虐待について学んだり、理解を深められるよう努力している。また、接遇マニュアルを作成し、毎日一項目ずつ目標をあげ、徹底できるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 主に管理者が対応し、支援について話し合うことが多く、介護職員が対応する事がないため、職員の理解は低いと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 主に管理者が行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月ご家族に日常生活報告書を郵送し、利用者の様子を伝えている。また、面会時には日々の様子や変化などを報告し、職員と話しやすい環境作りに努めている。二ヶ月に一度運営推進会議を開き、利用者の希望やご家族の意見を聞いている。 毎月介護相談員が訪問していただき、利用者の声を聞いていただき、施設に報告してくれる。 (外部評価) 利用者からは日々の暮らしの中で、家族からは面会時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。自宅に外泊される利用者もあり、外泊されても家族が困らないように、事業所では自立に向けた支援に努めている。管理者は、今後家族が集まるクリスマス会や敬老会等に合わせて、家族同士で話し合える機会を設けたいと考えているが、家族会の設立までには至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日頃から職員に話しかけ、皆が意見を言いやすい雰囲気作りをしている。また、勉強会やユニット会、朝・夕の申し送りの時にも、職員に意見を問うなどして提案ができるようにしている。	
			(外部評価) 毎月1回グループホームとデイサービス合同の全体会を行っている。また、各ユニット毎に日程を変えて毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っ、サービスの向上に活かしている。管理者は研修を受けやすいよう職員の希望を取り入れている。また、年2回個人面談を行い、職員個人の目標設定シートを1年単位に設定し、半年間の見直しを行い達成状況を確認しながら、職員と意思疎通を図るとともに、資格取得を支援するなど資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に一回、会社の総会が開催され、資格取得者や勤続年数10年の職員に、表彰や報奨金を授与している。各自が目標設定シートを作成し達成に向けて努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会のプリントなどを配り、なるべく多くの職員が参加し、受講できるように呼びかけている。受講後は研修報告書を提出し、勉強会で発表し、職員間で共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎月、主任・副主任会を実施し、ヒヤリハットや事故報告書について意見を出しあったり、接遇について話し合いサービスの向上に努めている。また、主任・副主任会で出た意見を他の職員に申し送り、共有している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 言葉がけを多くするようにして、困っていること、不安なこと、要望などを聞き出すようにしている。また、不安がある時には、ゆっくりと話を聞き対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話をしっかり聴き、家族の思いや不安を共有し、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族、ケアマネージャー等と話し合い、必要としている支援は何かを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の入居前の暮らしぶりや生活習慣を把握して、家事仕事や洗濯物たたみ等できる事をして頂き、不安な時はゆっくりと話を聴いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月一回、書面にて家族に利用者の様子を知らせる。面会時には様子を伝えている。体調の変化があれば、家族に電話連絡している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の七夕祭り、外部からのボランティアの演奏会等に参加している。地方祭の時には、何台ものみこしや太鼓台が訪問して下さる。事業所内で知り合いの方と話す事ができるようにしている。 (外部評価) 入居時にこれまでの馴染みの人や場所の情報をフェイスシートにまとめて、利用者や家族からの情報を把握している。家族が遠方でも、兄弟等が近くにいて面会の多い利用者もいる。利用者の要望と、家族の希望を配慮しながら、自宅近くまでドライブに出かけることもある。教会の礼拝に利用者の知人が送迎してくれたり、馴染みの場所に出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) なるべくテーブル席には気の合う同士になるよう席を配置している。食事の時、職員も一緒にテーブルで楽しく会話し利用者同士の関係がよくなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族の方からの相談に応じたり入院された方のお見舞いに行ったり、継続的な付き合いができるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常的に昔の話や生活面での話などを職員から話しかけ、会話の中から希望や意向をくみ取るように努めている。また、利用者様の視点で職員同士で話し合い検討する事で思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりから思いや要望を聞き取り、日々の会話の中から把握するようにしている。認知症の進行により意思疎通が困難な利用者の場合は、担当職員が日頃の様子から察するなど情報を得て、今までできていたことが継続できるように支援している。ユニット会で話したり、申し送りノートで伝達し確認のサインをして、全職員が共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、家族や本人、ケアマネジャーから生活の様子を詳しく聞き取る様にしている。また、生活歴のシートを記録し、職員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる可能性がある事は声掛けをし、まず行っていただき、様子を観察しながら利用者一人ひとりのできる事は何かを話し合い支援している。食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタル測定をし、体調の変化を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望を取り入れながら、三ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを出しながら計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。3か月に1回担当職員はモニタリングを行い、ユニット会で全職員で話し合い、状態の変化があればその都度、何もなければ定期的に6か月に1回介護計画の見直しを行っている。管理者と介護支援専門員は介護計画の確認を行い助言している。また、家族の面会時に介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のファイルを用意し身体状況、食事・水分摂取量、排泄等の日々の暮らしの様子を記録している。勤務開始前には全職員が記録を読み、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、病院受診・買い物等の支援は臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 二ヶ月に一度利用者が安心して地域での暮らしが続けられるように地域の方、民生委員の方々と意見交換する機会を設けている。毎月、歌や踊りのボランティアの方々が訪問してくださる。デイサービスで行われる生花や習字の教室に参加している。消防署の指導のもとで避難訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族が希望する今までのかかりつけ医や医療機関での受診や 通院を支援している。また、必要であれば、歯科・眼科など の専門医にも受診や通院の支援を行っている。家族が同行で きない場合は職員が代行する場合がある。	
			(外部評価) 月に1回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかり つけ医の変更を希望する利用者が多い。かかりつけ医を継続 される利用者には、家族が受診介助できない場合は、職員が 付き添っている。歯科や眼科の専門外来を通院する利用者も おり、職員が付き添っているが、家族が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師である施設長とは24時間連絡がとれる体制をとってい る。利用者の状態変化に応じ、看護師に相談し指示を仰ぎ適 切な受診や看護を受けるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には利用者の普段の状態、支援方法に関する情報を医 療機関に提供している。主に施設長が病院や家族に連絡を 行っている。職員もお見舞いに行く。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合いを行い、家族の意向を踏まえて医師と の連携をとっている。状態が悪化した場合はすぐに対応でき るように、協力医療機関と連携をとっている。	
			(外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていなかったが、状態の急変 により看取りを行った事例があり、職員は経験の中から、今 後は看取りの必要性を考え始めている。管理者は職員と話し 合いながら、研修を実施し、看取りが必要になった場合に は、協力医との連携を図りながら、事業所の力量を考慮しな がら支援に取り組む予定である。	看取りを経験した職員が少なく、重度化や終末期の支 援を行うためには、知識の向上や不安の解消など、職 員の具体的な教育をしていく必要があり、「重度化 (看取り)における指針」を作成し、勉強会を行うこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応については、マニュアルがあり、年一回以上は心肺蘇生法やAEDなどの使い方を勉強している。 勉強会や救命救急の講習会に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、火災を想定し避難訓練をしている。年1回は消防の協力、指導を受け消火訓練を行っている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。訓練には毎回ではないが、事業所から少し離れている地域住民も参加している。また、運営推進会議の参加者に災害時における協力をお願いしている。地域で行う防災訓練に参加はしていないが、地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市の担当課や家族に説明している。災害時に備えて備蓄品も準備しており、法人による備蓄品の賞味期限の管理が行われている。職員の緊急連絡網の整備はされているが、実践訓練は行っていない。	地域で開催される防災訓練に参加することで、地域住民との信頼関係の構築と事業所の状況を伝える機会となり、地域の連携を強化できると考えられる。また、事業所の災害対策について、職員の協力を得るために、災害時の職員連絡網を整備し、職員の連絡手順を伝えているが、実践の訓練をしていないため、連絡体制を再確認するとともに、職員への周知徹底を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの名前をきちんと呼んでいる。居室やトイレのドアは閉めている。トイレの声掛けは小声で行うようにしている。更衣についても、各居室にて行うようにしている。 (外部評価) 職員は日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けている。管理者はユニット会で職員と話し合い共有している。身体をさらす場面として、排泄や更衣時や入浴時の羞恥心への配慮もされている。また、利用者と呼ぶ時は、名字に「さん」を付けて呼ぶようにしている。利用者の個人情報に関する書類は、事務所で施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝、どの洋服を着るかをわかる方には自分で決めてもらっている。時々、好きな物を皆に聞き、誕生日会には好きなメニューを組み入れたり、おやつ作りを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 「何かすることがあればするよ。」と言われる利用者の方には、食材下準備や洗濯物干しなどを選んで、してもらっている。レクリエーションを行い、他利用者の方々とも話をしながら楽しく参加している。昼食後は一時間程度横になっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 食後の口元や洋服の汚れに気をつけている。汚れている時には、声掛けをし口元を拭き洋服などは交換している。介助が必要な方は職員が行っている。ボタンが外れていると声掛けをしたり、手伝うこともある。肌着がズボンから見えている時は声掛けをし入れなおしてもらったり、後方は職員が手伝うなどしている。『私はこれを着る』と利用者が言われる時は尊重している。『着る洋服が分からない』と言われる方や介助が必要な方は職員が選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材下準備や盛り付けを声掛けにて行ってもらっている。食後は食器をカゴの中に入れてもらい、下膳できる方はカウンターへ運んでもらっている。月に一回はユニット内でおやつ作りをしている。 (外部評価) 以前栄養士が立てた献立を使用し、職員が週2回スーパーや産直市場等で買い物し調理している。利用者と一緒に材料を切ったり皮をむくなど、利用者のできることは手伝いをしてもらっている。利用者の使い慣れたお茶碗や箸を使用している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら和やかな雰囲気ですべてを食している。嚥下の難しい利用者には、食事形態を工夫して食べやすいように配慮している。誕生日のケーキを利用者と一緒に手づくりしたり、外食やパンの移動販売を活用するなど、利用者が選択できる喜びを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の1000から2000ccの水分を摂取している。普通食の方、ミキサー食または刻み食の方に分けている。熱計表に毎回 食事・水分量を記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛けをし、口腔ケアをしている。介助が必要な方には、職員が付き添って口腔ケアをしている。磨き残しがある場合は職員が手伝う。入眠前は義歯は外している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は2～3時間おきにトイレ誘導をし、長時間トイレに行かない方は、声掛けしトイレに行ってもらおう。 夜間、紙おむつを使用している利用者はパッド交換、自分で起きられる方は見守り、介助している。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけを行い、立ち上がりのタイミングでトイレに誘導したりしている。おむつを使用している利用者には時間毎に交換し、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。排便の状態を考慮しながら、センナ茶を飲んでもらっているユニットもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を十分に摂っていただき、朝食後にバナナ・ヤクルトを摂っていただいている。排便がない方には緩下剤を調整しながら服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴を嫌がられる方は話をしたり時間をあけ、再度声掛けをして入浴していただいている。 毎日入りたい方は毎日、入浴していただくようにしている。 歩けない方はシャワーキャリーを使用し、シャワー浴や足浴を行っている。	
			(外部評価) 利用者は週3～4回程度入浴することができ、利用者の希望で毎日入浴することもできる。車椅子の利用者は週2～3回にしている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間や利用者に合わせて声かけのタイミングを計り、時には職員も一緒に入浴するなど、工夫しながら入浴を支援している。また、ゆず湯やバラ湯をして季節を感じながら、入浴できるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない方はリビングのソファにてゆっくりと過ごしていただいたり、職員と話をしたりしている。居室にて起きている際は巡回時に眠るように声掛けをしている。週に一回はシーツ交換を行い、天気の良い日には布団を干している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を読み、何を飲んでいるかチェックしている。 服用時は職員2名にてダブルチェックをおこない、本人に手渡し服用していただく。飲み込めているか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の家事仕事（食材下準備・洗濯物干し・洗濯物たたみ・お盆拭き・カゴ拭き等）利用者の方々に合わせ出来ることをお願いしている。外気浴、散歩、廊下歩行、体操などは毎日行う。月に2～3回はユニット内でおやつ作りや外出、外食を行っている。ダイルームで行われるボランティアの慰問には参加している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の年間行事にはできるだけ参加するようにしている。計画を立てて外出や外食をしている。外に出たい時は職員と一緒に車で出掛けたり、散歩をすることもある。	
			(外部評価) 日頃から車の往来の少ない通りを選んで散歩したり、利用者の希望に応じてスーパー等買い物に出かけたりしている。ユニット毎に年間外出計画を立て、季節に応じてお花見や七夕祭りやリンリンパークで外食や鯉の餌やり等にも外出できるように支援しており、利用者の楽しみとなっている。また、家族と一緒に外出される利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には利用者の方々はお金の持ち込みはおこなってはいない。必要であれば立替金として処理し支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族に電話をかけたいたりしている。また電話がかかってきた場合は取り次いでいる。 年賀状は職員と一緒に作成し、出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾り、見たり匂ったりして季節感を味わっている。 リビングの壁には季節の飾りを作成したり、廊下の壁には行事の写真などを飾っている。</p> <p>(外部評価) リビングは明るく畳コーナーも確保されている。壁面には、季節の作品を飾りつけ、職員が持参した花が飾られ、季節を感じることができる。また、事業所の七夕コンテストの出品作品が各ユニットに置かれ、利用者も一緒に参加して楽しんでいる。職員は利用者と一緒に清掃を行っており、業者によるカーペットクリーニングを年1回行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや廊下にソファなどを配置し、休憩したり、体操・歌などのレクリエーションも行っている。気の合った方とソファに座り、ゆっくりと話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時に本人が使い慣れている家具や置物など持参していただけるように依頼している。 居室には本人の作品や家族と一緒に写した写真などを飾っている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ベッドとエアコンと飾り用ボードとハンガー掛けが備え付けられている。ベッドは利用者の状態に合わせて、色々なタイプが準備されている。自宅で愛用していた机や椅子などの家具が持ち込まれたり、家族写真が飾られ、安心して居心地よく過ごせる居室づくりができています。また、入り口には手づくりの表札が掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々の部屋の入口に表札を作り掛けて誰が見てもわかるようにしている。自分の名前を見て入室している。 トイレにも『便所』とわかるように表札を掛けている。わかる方は自ら歩いてトイレに行っている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成 28年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ホーム内の行事以外に地域の農園に果物狩りに出掛け、収穫を楽しんでいる。また、夏には丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを作り、出展している。</p> <p>・日常生活では、食材の下準備や下膳、洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自分でできることは継続して行ってもらえるように支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地から少し離れた農地に囲まれた2階建ての建物で、1階にデイサービスが併設されている。1階と2階がグループホームの事業所である。母体法人は介護事業を多く手掛けており、職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。地域の情報を得て地域行事に参加したり、保育園や中学校との交流や、ボランティアの訪問もあり、利用者の楽しみにしている。買い物や外出など計画を立て、利用者を事業所に閉じこめない支援に努めている。管理者と職員が理念に沿って、利用者は日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかに過ごしている様子から伺うことができる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム丹原の郷

(ユニット名) 北町

記入者(管理者)

氏名 松木 祐子

評価完了日

平成 28年 6 月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲示や名札の裏に記載しており、日々実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人の理念を基に、事業所独自の理念を作成している。各ユニットのよく見える場所に、利用者が書道で書いた理念を掲示している。年に1回法人の総会があり、理念について説明を行っている。また、日々の申し送りの中で、管理者は職員と意見交換を行い理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の七夕祭りに笹飾りを出品し、見物に行くようにしている。秋祭りや運動会にも参加し、地域の方々と交流を持つようにしている。	
			(外部評価) 地域の自治会には加入していないが、運営推進会議に老人会長や民生委員の参加があり、地域の情報を得ることができている。七夕祭りの飾りを利用者と一緒にとって商店街に出展して交流を深め、利用者は年に1回の夜間の外出を楽しんでいる。また、地域の運動会や文化祭や秋祭りには、継続して参加したいと考えている。天気の良い日は、車の往来が少ない通りを選んで散歩している。法人のデイサービスにボランティアの訪問がある時に利用者も参加して、生け花や書道、歌や踊り等楽しみにしている。管理者は事業所を地域の方がいつでも訪問できる交流の場所にしたいと考えている。	地域住民との交流は行事の参加が中心となっている。利用者が地域で暮らしていくためには、地域とのつながりが大切であり、地域住民が事業所の理解を深められるよう、積極的に関わりを持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々から介護相談を受ける事もある。デイサービス事業が併設されているので、地域の方々の相談窓口になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、家族、地区の公民館長、民生委員、市役所職員、利用者の方にも交代で参加していただいている。行事の写真などを見ていただき報告している。家族や地域の方々から意見を伺いサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、市職員、市介護相談員、自治会長、老人会長、民生委員、見守り推進員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の状況や行事報告を行うとともに、参加者からの要望や意見を聞いている。参加者が防災に関する意見を出し合って意見交換を行い、利用者の安心と安全なサービスの向上に活かしている。参加しない家族には面会時に事業所の玄関で閲覧できるように配慮している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 管理者が対応している。市担当者との情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市職員及び市介護相談員が出席をし、事業所の実情を把握してもらうとともに、意見や助言を得ている。事故報告等の提出時には、分からないことをその都度相談するなど協力関係が築けている。また毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話をよく聴いてくれ喜ばれている。介護相談員の連絡会に管理者が参加し、市主催のケアマネ連絡会には、介護支援専門員が参加し連携を深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日常的に身体拘束はおこなっていない。日中は利用者の状態や希望に応じて、散歩・外気浴・草引き・野菜の収穫などを行っている。身体拘束の研修に参加したり勉強会で話し合うなどして理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 接遇マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの取組みについて理解を深め、職員への周知徹底を図っている。言葉の拘束についても、職員間で共有しながら支援している。また、段差のある危険な場所以外は施錠せず、日頃から職員一人ひとりが、利用者の安全の確保と自由な暮らしを支援するため、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 朝・夕の申し送りの時などに話し合っている。定期的な勉強会にて高齢者虐待について学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強会を開催し理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 主に管理者が行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開き、市職員や民生委員・家族・利用者と一緒に話す機会を持っている。 (外部評価) 利用者からは日々の暮らしの中で、家族からは面会時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。自宅に外泊される利用者もあり、外泊されても家族が困らないように、事業所では自立に向けた支援に努めている。管理者は、今後家族が集まるクリスマス会や敬老会等に合わせて、家族同士で話し合える機会を設けたいと考えているが、家族会の設立までには至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回 前期・後期に分けて管理者が職員と目標設定シートを活用し、個別面談をする機会を持っている。 勉強会や全体会、申し送り等で意見を述べている。 (外部評価) 毎月1回グループホームとデイサービス合同の全体会を行っている。また、各ユニット毎に日程を変えて毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っており、サービスの向上に活かしている。管理者は研修を受けやすいよう職員の希望を取り入れている。また、年2回個人面談を行い、職員個人の目標設定シートを1年単位に設定し、半年間の見直しを行い達成状況を確認しながら、職員と意思疎通を図るとともに、資格取得を支援するなど資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年一回 会社の社員総会が開催されている。職員の資格取得を支援し、勉強会も開催している。資格を取得した職員には、総会にて表彰や報奨金を授与している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月一回勉強会を行っている。内容は職員に希望を開き年間計画を立てている。 施設外の研修にも希望者が参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の東予地区の研修会に参加している。 同じ法人内のグループホームと主任・副主任会等を通じて情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 主に管理者が家族等の立場に立って家族より情報収集し馴染みの関係作りに努めている。 併設のデイサービスを利用するなどホームに慣れていただくように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が対応しており、家族からの相談を受け、意見や要望を聞いている。家族の気持ちや家族の状況を職員に伝えて良い関係作りができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族から話を聞き、困っている事や緊急性などを勘案して改善に向けた支援を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活しているその場、その場で一緒に感じあえるように努めている。漬物の漬け方、野菜の下ごしらえの方法等を教えてもらい、感謝や労いの気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方々に利用者の日々の様子を伝え、どのような関わり方をすると利用者がより生き生きと暮らせるかなどを話し合い、協力しあえる関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の敬老会に参加を希望される方には家族の了解のもと、参加していただくようにしている。 また、教会へ礼拝に行く方へは一緒に行ってくださいの方が毎回迎えにきている。 併設のデイサービスの方が来られる時は、話ができるように支援している。 (外部評価) 入居時にこれまでの馴染みの人や場所の情報をフェイスシートにまとめて、利用者や家族からの情報を把握している。家族が遠方でも、兄弟等が近くにいる面会の多い利用者もいる。利用者の要望と、家族の希望を配慮しながら、自宅近くまでドライブに出かけることもある。教会の礼拝に利用者の知人が送迎してくれたり、馴染みの場所に出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が共に助けあい、支えあって暮らしていくことの大切さを職員が理解するように努めている。利用者間に関係の理解に努め、利用者が孤立せずに、暮らしを楽しめるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要になった場合でも移り住む先の関係者に対して本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続等に配慮してもらえるように働きかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中から思いや希望を聞き、職員間で話し合っている。また、声掛けをしたり表情からも本人の思いをくみとるように努めている。把握が困難である場合は職員間で本人の視点に立って意見を出し合うようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりから思いや要望を聞き取り、日々の会話の中から把握するようにしている。認知症の進行により意思疎通が困難な利用者の場合は、担当職員が日頃の様子から察するなど情報を得て、今までできていたことが継続できるように支援している。ユニット会で話したり、申し送りノートで伝達し確認のサインをして、全職員が共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人が穏やかに、また持てる力を発揮しながら暮らしていくことを支援する為に、利用者の生活歴やサービス利用にいたった経緯を知るようにしている。普段の会話の中から情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その時、その時の様子がわかるように記録している。体調変化や精神面でいつもと違う所を注意し、申し送りを密にするようにしている。職員全員が日々の中でチームとして把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者、家族の方から思いや意見を聞き、また毎日の生活の中から得た情報をもとに話し合い介護計画の見直しを検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。3か月に1回担当職員はモニタリングを行い、ユニット会で全職員で話し合い、状態の変化があればその都度、何もなければ定期的に6か月に1回介護計画の見直しを行っている。管理者と介護支援専門員は介護計画の確認を行い助言している。また、家族の面会時に介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や利用者の発言、他の利用者との関わり方や体調変化やケアの内容など具体的に記録している。毎月カンファレンスを開き記録を活かしている。職員の気づいた事や利用者の変化は申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 認知症デイやショートステイ（長期空床の場合）の受け入れを行っている。 利用者や家族の要望に沿ったサービスを行っている。病院受診、買い物等必要な支援は家族等に連絡・相談して対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 歌や踊りのボランティアが定期的に来所し、利用者の方は楽しみにしている。 また地域の夏祭りや運動会にも出掛けている。 消防署の協力のもと、年2回の消防避難訓練や心肺蘇生法の講習会を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、希望する病院を受診できるように対 応している。 協力医療機関の医師が主治医となっている方が多く、月に一 度往診を受けている。 近隣の歯科医なども協力的である。 (外部評価) 月に1回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかり つけ医の変更を希望する利用者が多い。かかりつけ医を継続 される利用者には、家族が受診介助できない場合は、職員が 付き添っている。歯科や眼科の専門外来を通院する利用者も おり、職員が付き添っているが、家族が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者が看護職であり、利用者の健康状態や体調の変化につ いて相談でき、受診等の対応を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に利用者の普段の状況や支援方法に関する情報を医療 機関に提供している。 また、管理者が家族、医師と相談しながら早期退院に向けて の話し合いを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が早い段階から本人、家族、協力医療機関の医師と話 し合い、意向を聞き、連携をとっている。また、体調に変化 が見られた時などに話し合いを行っている。 (外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていなかったが、状態の急変 により看取りを行った事例があり、職員は経験の中から、今 後は看取りの必要性を考え始めている。管理者は職員と話し 合いながら、研修を実施し、看取りが必要になった場合に は、協力医との連携を図りながら、事業所の力量を考慮しな がら支援に取り組む予定である。	看取りを経験した職員が少なく、重度化や終末期の支 援を行うためには、知識の向上や不安の解消など、職 員の具体的な教育をしていく必要があり、「重度化 (看取り)における指針」を作成し、勉強会を行うこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。消防署の協力を得て応急手当や初期対応の研修・訓練を行っている。実演を交えて学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署、近隣の方たちの協力を得て、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使用方法などの訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議においても、協力を依頼している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。訓練には毎回ではないが、事業所から少し離れている地域住民も参加している。また、運営推進会議の参加者に災害時における協力をお願いしている。地域で行う防災訓練に参加はしていないが、地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市の担当課や家族に説明している。災害時に備えて備蓄品も準備しており、法人による備蓄品の賞味期限の管理が行われている。職員の緊急連絡網の整備はされているが、実践訓練は行っていない。	地域で開催される防災訓練に参加することで、地域住民との信頼関係の構築と事業所の状況を伝える機会となり、地域の連携を強化できると考えられる。また、事業所の災害対策について、職員の協力を得るために、災害時の職員連絡網を整備し、職員の連絡手順を伝えているが、実践の訓練をしていないため、連絡体制を再確認するとともに、職員への周知徹底を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使いには十分注意し、利用者を傷つけないように努めている。更衣・排泄・入浴などさりげない声掛けを心がけている。主介護者以外にはプライバシーに関することは絶対に話さないようにしている。 (外部評価) 職員は日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けている。管理者はユニット会で職員と話し合い共有している。身体をさらす場面として、排泄や更衣時や入浴時の羞恥心への配慮もされている。また、利用者と呼ぶ時は、名字に「さん」を付けて呼ぶようにしている。利用者の個人情報に関する書類は、事務所で施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自らの希望の表出ができない方には、複数の選択肢の中から選んでいただくようにしている。本人の気持ちを理解するように努め、利用者の方が納得しながら暮らせるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者に対する声掛けを密に行い、ちょっとした言動も見逃さないように対応している。その時の本人の気持ちを大切にしたい支援を心がけている。散歩なども個々のペースに合わせている。家族や面会者との会話などから本人の気持ちをくみ取るようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者との会話やご家族との話の中から、その人らしさを見出すように心がけている。 美容師（有償ボランティア）に来てもらって、自分の好みの髪型にしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜を切ったり、盛り付けをするなど利用者それぞれができる事で助けあっている。 職員は利用者と同じテーブルで食事をとっている。	
			(外部評価) 以前栄養士が立てた献立を使用し、職員が週2回スーパーや産直市場等で買い物し調理している。利用者と一緒に材料を切ったり皮をむくなど、利用者のできることは手伝いをしてもらっている。利用者の使い慣れたお茶碗や箸を使用している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら和やかな雰囲気ですべてしている。嚥下の難しい利用者には、食事形態を工夫して食べやすいように配慮している。誕生日のケーキを利用者と一緒に手づくりしたり、外食やパンの移動販売を活用するなど、利用者が選択できる喜びを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立表にそって食事を作っている。利用者の好みも取り入れ、食べやすい物を工夫している。また、食事量・水分摂取量を記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアと週2回の義歯洗浄剤を用いて消毒を行っている。 利用者一人ひとりの力に応じた口腔ケアの介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表に記録し、時間や習慣を把握し、トイレへお誘いすることで、トイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけを行い、立ち上がりのタイミングでトイレに誘導したりしている。おむつを使用している利用者には時間毎に交換し、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。排便の状態を考慮しながら、センナ茶を飲んでもらっているユニットもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排便状態を把握し、ヨーグルトやセンナ茶を飲んでいただいている。 廊下歩行・散歩・体操など体を動かす事を取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に合わせた声掛けや希望を確認し、入浴していただいている。体調に合わせ（発熱等）入浴を控える場合もある。	
			(外部評価) 利用者は週3～4回程度入浴することができ、利用者の希望で毎日入浴することもできる。車椅子の利用者は週2～3回にしている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間や利用者に合わせて声かけのタイミングを計り、時には職員も一緒に入浴するなど、工夫しながら入浴を支援している。また、ゆず湯やバラ湯をして季節を感じながら、入浴できるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリビングで過ごしたり、利用者同士でソファなどで談話しくつろいでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。投薬は本人に手渡し、きちんと服用できているかを確認している。処方の内容や用量が変更されたり、状態に変化が見られる時はいつもより詳細な記録をとっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の暮らしが楽しみや張りあいのあるものになるように、食事作り・梅干し作り・干し柿作り・切り干し大根作りなど、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、花の好きな方は庭で花を摘んだり生花教室に参加を勧めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの花見に出掛けることで、季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるよう日常的にも散歩や外気浴をして気分転換できるように支援している。利用者の希望があり、家族の了解が得られた場合は自宅の様子を見にいたり、草引きに行くなどの支援を行っている。 (外部評価) 日頃から車の往来の少ない通りを選んで散歩したり、利用者の希望に応じてスーパー等買い物に出かけたりしている。ユニット毎に年間外出計画を立て、季節に応じてお花見や七夕祭りやリンリンパークで外食や鯉の餌やり等にも外出できるように支援しており、利用者の楽しみとなっている。また、家族と一緒に外出される利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内でお金を使う機会はパン屋さんが来た時くらいである。個別に必要な時は立替金を行っている。個人のお金や財布は事務所の金庫で預かり、必要な時にお渡しするようにしている。現金は家族や本人が納得の上管理させていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話での対応ができる方には電話にでている。また、希望があれば、兄弟や家族に電話をかける事もある。毎年、年賀状や暑中見舞いを出す時期にはハガキを準備している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、壁飾りを毎月替えたり、居心地の良い空間作りをしている。</p> <p>(外部評価) リビングは明るく畳コーナーも確保されている。壁面には、季節の作品を飾りつけ、職員が持参した花が飾られ、季節を感じることができる。また、事業所の七夕コンテストの出品作品が各ユニットに置かれ、利用者も一緒に参加して楽しんでいる。職員は利用者と一緒に清掃を行っており、業者によるカーペットクリーニングを年1回行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 日当たりの良い所にソファを置いたり、戸外にはベンチを置いてくつろげるスペースを設けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいたり、家族からのハガキ、家族と一緒に写真を貼るようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ベッドとエアコンと飾り用ボードとハンガー掛けが備え付けられている。ベッドは利用者の状態に合わせて、色々なタイプが準備されている。自宅で愛用していた机や椅子などの家具が持ち込まれたり、家族写真が飾られ、安心して居心地よく過ごせる居室づくりができています。また、入り口には手づくりの表札が掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングには日めくりを作り、利用者がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室にはよくわかるように表示している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成 28年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・筋力低下予防のため 天気のよい日は屋外に出て、庭に咲いている各季節の色とりどりの花を見ながら散歩していただいている。雨天時は歌をうたいながら、廊下歩行をしていただく。 ・春夏秋冬 季節ごとに行事を行い、四季を味わっていただく。 ・季節を感じていただくことと共に、日々の天気の変化や温度の変化も感じてほしいと思いつつ支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地から少し離れた農地に囲まれた2階建ての建物で、1階にデイサービスが併設されている。、1階と2階がグループホームの事業所である。母体法人は介護事業を多く手掛けており、職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。地域の情報を得て地域行事に参加したり、保育園や中学校との交流や、ボランティアの訪問もあり、利用者の楽しみにしている。買い物や外出など計画を立て、利用者を事業所に閉じこめない支援に努めている。管理者と職員が理念に沿って、利用者は日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかに過ごしている様子から伺うことができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グルーポホーム丹原の郷

(ユニット名) 上町

記入者(管理者)

氏名 松木 祐子

評価完了日

平成 28年 6月 8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) わかりやすく文章にして、各ユニットに掲示している。職員の名札の裏にも記載し、いつでも確認できるようにしている。	
			(外部評価) 法人の理念を基に、事業所独自の理念を作成している。各ユニットのよく見える場所に、利用者が書道で書いた理念を掲示している。年に1回法人の総会があり、理念について説明を行っている。また、日々の申し送りの中で、管理者は職員と意見交換を行い理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 丹原七夕祭りや秋祭りには地域の方と交流が持てるように努めている。また、毎月 地域のボランティアの方が慰問に来てくれ、歌や踊りを披露してくれている。	
			(外部評価) 地域の自治会には加入していないが、運営推進会議に老人会長や民生委員の参加があり、地域の情報を得ることができている。七夕祭りの飾りを利用者と一緒にとって商店街に出展して交流を深め、利用者は年に1回の夜間の外出を楽しんでいる。また、地域の運動会や文化祭や秋祭りには、継続して参加したいと考えている。天気の良い日は、車の往来が少ない通りを選んで散歩している。法人のデイサービスにボランティアの訪問がある時に利用者も参加して、生け花や書道、歌や踊り等楽しみにしている。管理者は事業所を地域の方がいつでも訪問できる交流の場所にしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) デイサービス事業所を併設しており、またグループホーム内でも共用型のデイサービスを行い、利用者の受け入れを行っている。民生委員の方も運営推進会議に参加してくださる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者代表、家族、民生委員、介護相談員、地域包括支援センターの方々に参加していただき、管理者、各ユニット職員がサービス内容や行事の報告をしている。参加者の意見をサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、市職員、市介護相談員、自治会長、老人会長、民生委員、見守り推進員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の状況や行事報告を行うとともに、参加者からの要望や意見を聞いている。参加者が防災に関する意見を出し合って意見交換を行い、利用者の安心と安全なサービスの向上に活かしている。参加しない家族には面会時に事業所の玄関で閲覧できるように配慮している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月2名の介護相談員が来訪され、利用者や職員と和やかな雰囲気ですり合っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員及び市介護相談員が出席をし、事業所の実情を把握してもらうとともに、意見や助言を得ている。事故報告等の提出時には、分からないことをその都度相談するなど協力関係が築けている。また毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話をよく聴いてくれ喜ばれている。介護相談員の連絡会に管理者が参加し、市主催のケアマネ連絡会には、介護支援専門員が参加し連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。ユニット会や申し送りにおいても、点検しあっている。	
			(外部評価) 接遇マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの取組みについて理解を深め、職員への周知徹底を図っている。言葉の拘束についても、職員間で共有しながら支援している。また、段差のある危険な場所以外は施錠せず、日頃から職員一人ひとりが、利用者の安全の確保と自由な暮らしを支援するため、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月の勉強会や外部の研修に参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加している。必要な方への対応は管理者が行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が説明し、承諾して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議やお花見、クリスマス会などの行事の時、面会時に要望を聞き、参考にさせて頂いたり、改善に努めている。	
			(外部評価) 利用者からは日々の暮らしの中で、家族からは面会時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。自宅に外泊される利用者もあり、外泊されても家族が困らないように、事業所では自立に向けた支援に努めている。管理者は、今後家族が集まるクリスマス会や敬老会等に合わせて、家族同士で話し合える機会を設けたいと考えているが、家族会の設立までには至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、ユニット会や勉強会を設けている。また、個別に面接の機会を設け、意見や要望を聞いている。 (外部評価) 毎月1回グループホームとデイサービス合同の全体会を行っている。また、各ユニット毎に日程を変えて毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っており、サービスの向上に活かしている。管理者は研修を受けやすいよう職員の希望を取り入れている。また、年2回個人面談を行い、職員個人の目標設定シートを1年単位に設定し、半年間の見直しを行い達成状況を確認しながら、職員と意思疎通を図るとともに、資格取得を支援するなど資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者を通して職員の意見を聞き、職場環境や条件の整備に努めている。年一回総会が開催され、資格取得者の表彰や勤続表彰をし、奨励金がもらえ励みになっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を提示し、研修会への参加を呼びかけている。受講者は研修報告書を提出し、勉強会で発表している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修会、主任・副主任会に参加し、情報収集したり、意見交換をし、良いところを取り入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に面接して情報収集をしている。同施設内のデイサービスを利用して頂いている場合は職員も声掛けを行い、慣れ親しんでいただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込み時より不安に思っている事、困っている事などの相談を受け、個々に応じた対応に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時 本人や家族の思いや状況を確認し改善に向けた支援の提案や相談援助を繰り返し行い、信頼関係を築くように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、平素から利用者に教えてもらえる場面が多く持てるように工夫している。輝いて暮らされていた時の事を話題に持ちだし生き生きと話してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族の思い出に寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有している。行事などの写真を見て頂いてきっかけを作り、話す機会を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が家族から孤立した状態にならないよう、ホームで行う行事等にできるだけご家族にも参加していただけるようお誘いしている。 (外部評価) 入居時にこれまでの馴染みの人や場所の情報をフェイスシートにまとめて、利用者や家族からの情報を把握している。家族が遠方でも、兄弟等が近くにいて面会の多い利用者もいる。利用者の要望と、家族の希望を配慮しながら、自宅近くまでドライブに出かけることもある。教会の礼拝に利用者の知人が送迎してくれたり、馴染みの場所に出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事やお茶の時には職員も一緒にテーブルを囲み、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族から相談を受ける事もあり、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向に添えるように職員が話しあったり、日々の中で利用者の思いをくみ取るように努めている。ささいな事も見逃さないようにし、職員間で情報共有ができるように記録や申し送りを行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりから思いや要望を聞き取り、日々の会話の中から把握するようにしている。認知症の進行により意思疎通が困難な利用者の場合は、担当職員が日頃の様子から察するなど情報を得て、今までできていたことが継続できるように支援している。ユニット会で話したり、申し送りノートで伝達し確認のサインをして、全職員が共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者自身の話や家族の面会時に知り得た情報を職員同士で共有できるように生活歴や状態を記入用紙に書き込んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活習慣や心理面での視点や、できること・できないことに注目し全体の把握に努めている。 少しでもできることに重点をおきケアを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々利用者に寄り添い、要望を把握し、家族の要望を聞き、三ヶ月ごとにカンファレンスを行い、介護計画書を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。3か月に1回担当職員はモニタリングを行い、ユニット会で全職員で話し合い、状態の変化があればその都度、何もなければ定期的に6か月に1回介護計画の見直しを行っている。管理者と介護支援専門員は介護計画の確認を行い助言している。また、家族の面会時に介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 体調不良や精神面などの変化を個別ファイルを用意して日々記録し、職員間で情報を共有し毎月カンファレンスを行い、実践できるよう記録を活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通所介護事業を行っており、本人や家族の要望に沿ったサービスを行っている。習字教室・生花教室等が定期的に行われ参加することで、変化のある生活ができていると思う。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に歌や理容ボランティアがある。消防機関と協力して、年2回避難訓練を実施している。また、年1回水害時避難訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的な受診には、本人の状態のわかる職員が同行すること もあり、家族と協力しあっている。グループ内の医療法人と 連携しており、早急な対応が可能で適切な指示がもらえてい る。 (外部評価) 月に1回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかり つけ医の変更を希望する利用者が多い。かかりつけ医を継続 される利用者には、家族が受診介助できない場合は、職員が 付き添っている。歯科や眼科の専門外来を通院する利用者も おり、職員が付き添っているが、家族が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の変化、異変に気づいた時は看護師に報告、相談し指示 を仰いでいる。施設の看護師や担当医師との連絡が取れる体 制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供 している。病院や担当医と連携し情報の交換や退院に向けて の受け入れを行っている。主に管理者が病院や家族との対応 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主に管理者が行っている。早い段階から本人・家族・医療機 関の医師と話し合い、意見を聞き連携をとっている。体調の 変化が見られた時などはすぐ対応していただけるよう医療機 関と連携をとっている。 (外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていなかったが、状態の急変 により看取りを行った事例があり、職員は経験の中から、今 後は看取りの必要性を考え始めている。管理者は職員と話し 合いながら、研修を実施し、看取りが必要になった場合に は、協力医との連携を図りながら、事業所の力量を考慮しな がら支援に取り組む予定である。	看取りを経験した職員が少なく、重度化や終末期の支 援を行うためには、知識の向上や不安の解消など、職 員の具体的な教育をしていく必要があり、「重度化 (看取り)における指針」を作成し、勉強会を行うこ とを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を開催し、対応等について学習している。消防署の協力のもと、AEDを用いての救命救急や応急処置の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署指導のもと、避難訓練を実施している。消火器の使用方法を体験して、指導していただいている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。訓練には毎回ではないが、事業所から少し離れている地域住民も参加している。また、運営推進会議の参加者に災害時における協力をお願いしている。地域で行う防災訓練に参加はしていないが、地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市の担当課や家族に説明している。災害時に備えて備蓄品も準備しており、法人による備蓄品の賞味期限の管理が行われている。職員の緊急連絡網の整備はされているが、実践訓練は行っていない。	地域で開催される防災訓練に参加することで、地域住民との信頼関係の構築と事業所の状況を伝える機会となり、地域の連携を強化できると考えられる。また、事業所の災害対策について、職員の協力を得るために、災害時の職員連絡網を整備し、職員の連絡手順を伝えているが、実践の訓練をしていないため、連絡体制を再確認するとともに、職員への周知徹底を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の個々の状態に合わせた声掛けを心がけている。その都度、言葉かけや対応の仕方を見なおしている。 (外部評価) 職員は日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けている。管理者はユニット会で職員と話し合い共有している。身体をさらず場面として、排泄や更衣時や入浴時の羞恥心への配慮もされている。また、利用者と呼ぶ時は、名字に「さん」を付けて呼ぶようにしている。利用者の個人情報に関する書類は、事務所で施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活では、できる限りご本人の希望を聞くようにしている。判断のできない方は表情からくみ取り、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ユニットで利用者一人ひとりのケアについて話し合い、一人ひとりと向き合える様にその人のペースに合わせた個別ケアに取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時に利用者の方と一緒に衣類を選んでいただくようにしている。外出時には着替えを手伝う様にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下準備（野菜切りなど）をしていただく。食べ終わった食器は各自カゴに入れていただく。定期的におやつ作りを行い作る楽しみを味わっていただく。 (外部評価) 以前栄養士が立てた献立を使用し、職員が週2回スーパーや産直市場等で買い物し調理している。利用者と一緒に材料を切ったり皮をむくなど、利用者のできることは手伝いをしてもらっている。利用者の使い慣れたお茶碗や箸を使用している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら和やかな雰囲気です事をしている。嚥下の難しい利用者には、食事形態を工夫して食べやすいように配慮している。誕生日のケーキを利用者と一緒に手づくりしたり、外食やパンの移動販売を活用するなど、利用者が選択できる喜びを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量を記入している。入浴後、入眠前の水分補給も行っている。ヤクルト、スポーツ飲料、コーヒー、牛乳等の味の違った物や気温を考慮して飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の磨き残しがあれば、介助している。残歯にある方は歯磨き粉をつけていただく。義歯については、週2回洗浄剤を用いての洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの能力や排泄パターンを把握し、職員全員が共有し、立ち上がった際に声掛けや誘導を行い、トイレにて気持ちよく排泄できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけを行い、立ち上がりのタイミングでトイレに誘導したりしている。おむつを使用している利用者には時間毎に交換し、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。排便の状態を考慮しながら、センナ茶を飲んでもらっているユニットもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を用いて、職員全員が把握している。緩下剤を服用している方もいるが、なるべく薬に頼らず、自然に排便できるようセンナ茶・ヨーグルト・バナナ等を摂取していただく。廊下歩行・散歩等運動の声掛けを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 気持ちよく入浴していただけるように個々に応じた誘い方をし、湯の温度・洗い方等好みにあわせている。	
			(外部評価) 利用者は週3～4回程度入浴することができ、利用者の希望で毎日入浴することもできる。車椅子の利用者は週2～3回にしている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間や利用者に合わせて声かけのタイミングを計り、時には職員も一緒に入浴するなど、工夫しながら入浴を支援している。また、ゆず湯やバラ湯をして季節を感じながら、入浴できるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はソファや和室、リビングにてくつろげるようにしている。居室にて休んでいただいている方もいる。(利用者が居室にいる場合は頻りに様子を見に行っている。)就寝前に温かい飲み物(ホットミルク等)を勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬表を一冊のファイルにまとめている。服用時は本人に手渡したり、口に入れるなどきちんと服用できているかを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材の下準備、洗濯物を干したりたたんだり、利用者個々にできる事をしていただいている。職員は感謝やねぎらいの言葉をかけている。季節に応じた行事、ボランティア慰問等に参加し、楽しんでいただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日には職員が付き添いホームの庭で散歩や外気浴を行い、気分転換を図っている。季節の果物狩り、花見、地域の七夕祭り、運動会などにも体調を考慮しながら参加している。	
			(外部評価) 日頃から車の往来の少ない通りを選んで散歩したり、利用者の希望に応じてスーパー等買い物に出かけたりしている。ユニット毎に年間外出計画を立て、季節に応じてお花見や七夕祭りやリンリンパークで外食や鯉の餌やり等にも外出できるように支援しており、利用者の楽しみとなっている。また、家族と一緒に外出される利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内で現金を使う機会はほとんどない。必要な場合は個別に立替をしている。買い物に行く時は職員が見守りや声掛けの援助をおこなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がかかってきた場合は取り次ぎを行っている。年賀状を出す支援は行っている。手紙を書ける方には希望があれば便箋やハガキを準備して、宛名は職員が書くなどして支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 四季折々の利用者手作りの壁画や行事ごとに撮影した写真を貼ったり生花をいけている。和室があり家庭的な雰囲気を楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) リビングは明るく畳コーナーも確保されている。壁面には、季節の作品を飾りつけ、職員が持参した花が飾られ、季節を感じることができる。また、事業所の七夕コンテストの出品作品が各ユニットに置かれ、利用者も一緒に参加して楽しんでいる。職員は利用者と一緒に清掃を行っており、業者によるカーペットクリーニングを年1回行っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下などにソファを置いて思い思いにすごしていただけるように居場所作りをしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使いなれたタンス等の家具を持ってきていただいている。壁にはコルクボードを設置して写真やカレンダーを貼り、部屋が殺風景にならないようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ベッドとエアコンと飾り用ボードとハンガー掛けが備え付けられている。ベッドは利用者の状態に合わせて、色々なタイプが準備されている。自宅で愛用していた机や椅子などの家具が持ち込まれたり、家族写真が飾られ、安心して居心地よく過ごせる居室づくりができています。また、入り口には手づくりの表札が掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレには『便所』と表示し分かりやすくしている。本人や家族に了解を得て居室に名札をあげて、戸惑いを減らしている。トイレや廊下には手すりがある。</p>	